

介護従事者(介護で働く人)のできること

～ 介護職の現状と魅力ある職業へ ～

実は、あまりよく知られていない介護の仕事。
実際に、介護の現場で働かれている職員さんに、
その実態と介護の“魅力”を教えてくださいました。

わたしはグループホームへ転職し3年になります。大きな施設に比べ、グループホームでは利用者との関わりが密にでき、心のケアを目標に考えてきたわたしにとって、やりがいのある仕事だと感じています。しかし、認知症という病気を持った人の介護支援は理解力と忍耐力がまさに必要だと感じています。

何度も同じ訴えや行動を繰り返される人、童心に戻って、親や兄弟への不安や寂しさを訴えられる人、「物が取られた」と疑いを投げかけられる人、真夜中の帰宅願望で眠れない人、「ご飯を食べていない」と暴言をはかれる人など、いろいろな思いに対応し、利用者が笑顔を取り戻されたときの喜びは、この介護の仕事の生きがいを感じ

わたしが介護の仕事に転職してから6年目を迎えました。以前は違う仕事を十数年していました。介護も初めてでしたが、認知症の皆さんと接するのも初めてで、最初は戸惑いや不安もありましたが、目を追うことにやりがいや達成感を感じるようになりました。正直、精神的にも肉体的にもつらいことが多い仕事ですが、利用者の「ありがとう」の言葉と笑顔に励まされ、ここまで頑張ってこられたように思います。介護するはずの自分が逆に利用者の皆さんから励まされ、教えられ、学ばせていただくことで少しずつですが自分が日々、成長できていることに感謝しています。

現在、日本では、社会の急速な高齢化の問題をマスコミなどがよく伝えています。わたしたち高齢者介護に関わる者にとっては、今後増えていくであろう、介護を受けなければならない人たちに、どう対応し、どう支援していくのか、とても気になるところです。

わたしたちのグループホームでは、認知症となった皆さんと日々接しながら、確かに大変で、対応困難な状況になることもあります。ですが、中でも大変だからこそお互いが喜び合える瞬間がたくさんあ

ある認知症の人のお世話をさせていただいた時、この人はなかなか他人と交わることができず、いつも一人で離れた場所に座り会話も見られませんでした。乱暴な行為もあり、施設を出て行かれることもたびたびありました。それでも半年間粘り強く食事の世話をしたりお茶の時間に声をかけたりして、乱暴な行為はまだ残っていましたが、少しずつ会話ができるようになっていきました。それから2年

高齢者介護を社会全体で支える制度としてスタートした介護保険制度も、10年を過ぎました。

居宅介護支援事業者のケアマネジャー（介護支援専門員）は、介護保険に関する相談窓口として、利用者や家族へのアドバイスを行ない、要介護認定申請の代行や、利用者や家族の希望に沿ったケアプランを作成します。居宅サービス事業者（通所やショートステイ、訪問介護など）との連絡や調整を行ないながら、ときには施設入所を希望する人に適切な施設の紹介を行ないます。

桜の里居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして仕事をさせてもらっていると、これまでたくさんの出会いがありました。利用者や家族とのかかわりの中で、人生の先輩から教わることもたくさんあり、新しい発見に気づかせていただいたりして毎日が感謝の日々です。しかし介護の現状として、家族やサービス利用者の希望と介護保険制度の決まりごとの間で苦勞することはばかりです。

じる瞬間です。

認知症の人を家で介護されているご家族は、元気で生活していたときの姿を知っているだけに受け入れることができず、ストレスを蓄積し共倒れ寸前でホームへ来られて苦勞話をされます。わたしたちは他人だから一緒に過ごせる利用者の今の姿を受け入れ、「こんなこともできるんだ」と一つひとつできる能力が発見でき、支援することで「ありがとう、お母さん」という言葉をいただいたとき、介護という魅力を感じます。

今のわたしは、利用者との暮らしの中で学び、自身の成長につながっていると思います。

グループホーム かとれあ会 行政尚子

利用者の皆さんが今までどのような人生を送ってきたのか、何を考えどのような生活を送りたいと望んでいるのか、生活暦や生活習慣、その人の価値観、今ある心身の状況を把握し、介護に臨むことの重要性を理解することで、介護の奥の深さを知ることができました。そして、認知症の人には言葉ではなく、心で通じることが何よりも一番大切だと学びました。

利用者や家族とのふれ合いを通して得られる笑顔、感動、感謝の言葉こそが「介護の魅力」ではないでしょうか。

グループホーム かとれあ会 西村久幸

ります。わたしたち職員だけでは十分な介護は到底できません。家族、主治医、地域の皆さん…、その人をとりまく多くの人たちが、温かい手を差し延べてくださり、わたしたちのグループホームを支えてくださっています。その温かい手を、できるだけ多く、そして仲良くつないで、大きな輪にしていくことが大切だと実感しています。

「介護」という言葉でなく、「支えあい」という意識を持ち続けていきたいと思っています。

グループホーム ヒューマンケア 藤田節子

が過ぎたころには、ご自分からお話をされるようになり、笑顔も見られ表情も豊かになられて、信頼関係を結べた時には介護の仕事を続けていてよかったと思いました。そして、今日も利用者の皆さんとあいさつを交わすときに皆さんの笑顔を見ると、この仕事のやりがいを感じています。

もみじ園 ケアマネージャー 菊川澄男

多くの人は要介護状態になっても、可能な限り住み慣れた地域や自宅で生活を続け、人生最期のときまで自分らしく生きることを望んでいます。個々の要望に応じて、医療や介護などのさまざまなサービスが適切に提供できるような地域ごとの体制が必要です。

すべての人が安心して高齢期を迎えられる制度や社会になって欲しいと願っています。

このたび、合志市の協力により医療法人中山会で地域密着型サービス「さくらんぼ」（小規模多機能型居宅介護、グループホーム、認知対応型通所介護）を平成23年1月に豊岡、3月に須屋で開設することとなりました。

地域の皆さんに愛されるような地域密着型サービスを目指して頑張っていきます。どうぞよろしくお願いします。

桜の里居宅介護支援事業所 森下由美子

住み慣れた地域の中で、その人らしく心豊かに暮らすことができるまち

～地域に根差して～ 本市指定の地域密着型サービスの事業所を紹介します(平成22年4月1日現在)

《地域密着型サービスってなに？》

介護が必要な状態になっても、できる限り住み慣れた自宅や地域で生活を継続できるようにするためのサービスです。
※日常生活圏域ごとに拠点を置いて、地域の住民と共に開かれた良質なサービスを提供することを目指しています。

●事業者の指定・指導監督は市が行ないます。

●対象者は要支援、要介護認定を受けた人で、原則として本市の住民です。

小規模多機能型居宅介護事業所……………地域の居宅サービスの拠点、デイサービス・短期宿泊および訪問介護などのサービス
グループホーム(認知症対応型共同生活介護) ……認知症の高齢者に対して、共同生活で家庭的な環境と地域住民と交流の下、日常生活上の世話と訓練を行ない、自立した日常生活を営むサービス

小規模多機能型居宅介護事業所のしまハウス



合志市野々島5044番地
☎242-8101

ののしまハウスは、特別養護老人ホーム菊香園が長年に渡り取り組んできた地域の高齢者福祉にご協力いただいたお返しとして、平成18年6月に開設しました。
築100年以上の古民家を利用し、庭先の納屋や屋敷、土間・仏壇・神棚・古い農機具などを当時のまま残し、以前の生活をほうふつさせることで生活意欲をかきたてながら安心して過ごせる空間としています。また、ののしまハウスの理念を「利用者一人ひとりの思いに誠実に向き合います」「家族・地域のために寄り添ったケアを行ないます」とし、地域の中で「いつでも」「どこでも」「何でも」できる利用者最優先のサービス拠点となるよう努めています。
毎年恒例となった「地域のみなさまとの交流会」をはじめ、交流の機会を増やしていき、交流の場としても使っていたくことで地域との関わりを深め、お茶飲みにも、福祉や介護の相談にでも、皆さんが気軽に立ち寄ることができる場所として開放しています。ぜひ、お立ち寄りください。

吉田

グループホーム ヒューマン・ケア



合志市幾久富1909番地700
☎247-0087

ヒューマン・ケアは、高齢者の皆さんが「安心して」「住まいの延長として」「自宅のように気軽に安心して利用していただく」とともに、その人が持つっている身体的な機能の維持や自立的な支援と見守りを中心に、身体的に衰えのある人については、きめ細かいフォローや介護をしています。また、病気を併発されている人には、多くの医療機関と連携しながら身体的・精神的な療養のバックアップ体制もついています。
現在は、利用者のご家族に気軽に訪ねていただいています。入所者にとつてはご家族の顔を見られることが一番の喜びのようです。その他に当ホームの特徴として、地域のたくさんの方のボランティアのご支援や子どもたちの訪問などで、地域との交流をさせていただいています。これは、「家」における訪問客的な位置づけと共に、ケアで忙しいスタッフの支援的な意味となっています。地域交流は災害時や利用者の離脱時などの緊急時にこそ支援いただくためにも、地域の皆さんと日ごろからの交流を通して顔見知りになってもらうことが重要と考えているからです。わたしたちは多くの苦難を乗り越えて人生経験も豊富な高齢の利用者の皆さんの最後半期をゆつたり「安心」して暮らしていただけるホームを目指しています。ヒューマン・ケア 下條

グループホーム もみじ園



合志市野々島5427番地1
☎348-5517

もみじ園では、基本理念に「個人を尊重」「地域と共に」「仲間良く、楽しく」を掲げ、毎日大切に職員と子ども、楽しく過ごしています。
家庭的で、落ち着いた雰囲気の中で生活を送ることで、認知症の進行防止を図り、家庭介護の負担軽減に貢献します。
利用者と職員は、本当の家族以上に親しみ合える仲でいてほしいと思います。特に力を入れているのは、地元住民の皆さんのご協力もあり、静かで、落ち着いた恵まれた環境の中にあることです。この環境を生かして、利用者と一緒に花を植えたり、野菜を育てたりすることを通じて、感動や喜びを共に分かち合い、落ち着いた気持ちで毎日を暮らしてほしいと思います。

もみじ園

坂井

グループホーム かとれあ会



合志市栄2325番地1
☎247-2820

大型施設での一律のケアと違い、小規模で家庭的な雰囲気の中で、認知症の人がその人らしく生活ができる場がグループホームかとれあ会です。
当グループホームで力を入れていることは、利用者の皆さんとご家族、地域の皆さん、職員とが温かい人間関係を作り、住み慣れた地域で安心して生活できるように支援し、利用者の尊厳を大切にすることです。
利用者やご家族の皆さんでホーム内の畑で一緒に野菜や果物を作り、収穫を楽しんだり、ファミリーコンサートや夏祭りなどでは、家族会の皆さんや区長さん、民生委員の皆さん、地域住民の皆さんのご協力とご参加をいただいたりしています。さらに、毎月利用者の皆さんと一緒に地域行事への参加や、近くのスーパーへ買い物など外出支援も行なっています。その他にボランティア団体の慰問、近隣の中学生の慰問があり、開かれた施設を目指して日々努力しています。
最後に「ありがとう」と言っていただけのような介護を目指し、地域に密着したサービス事業所として職員一丸となって取り組んでいく所存です。

かとれあ会 塚本